



短期大学部ベタニア主催ワークショップ報告書

Girl's, Be Ambitious! ~格差社会と私たち~

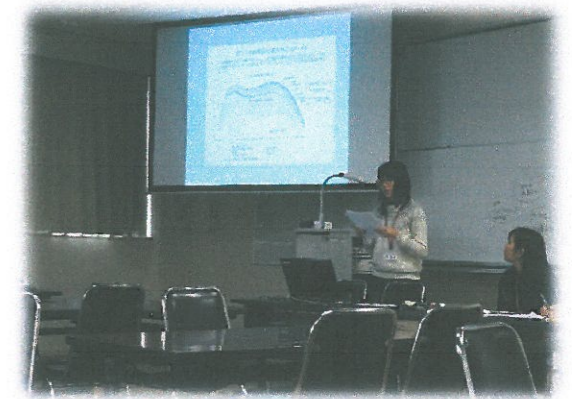
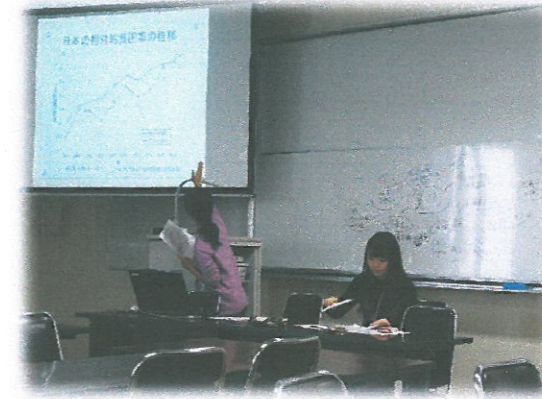


私たち短期大学部ベタニアは、12月16日(水)にR棟のR65教室にて、日本における貧困についてのワークショップを行いました。「貧困」と聞くと、どうしても海外の発展途上国に目を向けがちになりますが、実は私たちが住む日本にも金銭面で困っている人たちがいることを多くの人に知ってほしいという気持ちを込めて行いました。

ワークショップでは、はじめに日本の貧困状態にある子供たちの現状を紹介し、続いてそれらと密接に関連するシングルマザーの貧困、女性の就職から見る貧困について焦点を当てて見ていきました。特に短期大学部は女性だけの学部なので、私たちの将来の生き方と絡むような事例を使って、貧困に負けない「女性としての生き方」について考えました。また、ワークショップに参加してくださった方々にとって少しでも有意義なものになればと思い、グループディスカッションなどのアクティビティを入れ、皆で貧困について深く考える良い機会となりました。

政府による貧困対策が少しずつ行われているとはいえ、やはり貧困家庭への支援は不十分であることが、ワークショップの準備を通して見えてきました。日本における貧困は相対的な貧困である為、はっきりと目に見えるものではなく、私たちが意識して見ていこうとする姿勢が無い限り気付にくいものだという事も徐々にわかってきました。当初は、私たちベタニアメンバーも、「日本の貧困」と聞いてピンときませんでした。実際、私たちの周りでも貧困家庭の知り合いがいるのかも知れませんが、本人が私たちに助けを求めようとしてくれない限り、何もしてあげることができない、問題に気づいてあげることすらできないというのが現状なのです。すぐに助けてあげることができれば良いのですが、そもそも日本の貧困状況を知らなければ、問題の解決には繋がりません。また、貧困の連鎖を止めるためにはどうしたら良いかという解決策も、基礎知識が無ければ出にくいと思います。貧困を食い止めるには、多くの人々の貧困に対する理解とともに、物質的な支えと精神的な支えに通じる、人と人とのつながりが大切だと、ワークショップを通して気づくことができました。

日本における貧困は、誰でもなり得るものです。これからの人生において様々な選択をする際、自分自身がどんな状況に陥ってもおかしくはありませんし、また、周りで困っている人を見ることもあるかもしれません。貧困を未然に防ぐことを常に意識するのは勿論、もし自分自身や周りの人が貧困状態に陥ってしまったらどうすれば良いかを考えるとき、今回の貧困ワークショップで学んだことを生かせると思います。



↑
プレゼンテーションの様子



↑
グループディスカッションの様子



↑
グループで出した意見を
ホワイトボードに書いて整理

↑
他のグループと意見交換

